



日本美容皮膚科学会
Japanese Society of Aesthetic Dermatology



第41回

日本美容皮膚科学会総会・学術大会

スイーツセミナー 6

患者満足度を高める 痤瘡治療とは？

2023年
8月19日(土)
14:00 - 15:00

第6会場

京王プラザホテル
南館3階 グレース



座長

林 伸和 先生

虎の門病院 皮膚科 部長



座長

野村 有子 先生

野村皮膚科医院 院長



最初が大事な痤瘡治療

演者 小林 美和 先生

こばやし皮膚科クリニック 副院長



ニキビ痕を残さない治療とは？ ～Speed is Value～

演者 乃木田 俊辰 先生

新宿南口皮膚科 院長・理事長 / 東京医科大学 皮膚科 兼任教授

共催：第41回日本美容皮膚科学会総会・学術大会 / サンファーマ株式会社

患者満足度を高める痤瘡治療とは？



最初が大事な痤瘡治療

演者 **小林 美和** 先生
こばやし皮膚科クリニック 副院長

抄録

ニキビ痕の治療と、ニキビ痕を作らない治療、どちらが難しいだろうか。痤瘡をきれいに治すには、発症の初期から治療介入し、炎症性皮疹を短期間に減らして再燃しないようコントロールしなければならない。発症の初期、すなわち思春期の患者に対する治療をいかにうまく進めるかが重要である。そのためには、初診時に本人及び保護者へ疾患と治療に関する情報を提供しつつ、子供たちの治療意欲を引き出さなければならない。同時に、最初の治療で患者と保護者に効果を実感させることも求められる。そんな治療開始時におけるデュアック®ゲルの出番を提案したい。

いや、発症初期に受診するかどうかは患者次第だから、という意見もあるだろう。であれば、ニキビができて始めてらすぐに受診するように啓発し、少しでも早く治療を受けてもらう環境を作ることから考えたい。

略歴

1996年	香川医科大学卒業	2001年	同助手
	産業医科大学皮膚科入局	2005年	同講師
1998年	産業医科大学皮膚科専修医	2014年	こばやし皮膚科クリニック勤務 副院長



ニキビ痕を残さない治療とは？ ～Speed is Value～

演者 **乃木田 俊辰** 先生
新宿南口皮膚科 院長・理事長／東京医科大学 皮膚科 兼任教授

抄録

ニキビ治療のグローバルアライアンスは、「適切な治療を早期から開始し、長期間継続することが瘢痕の予防に有用である」と提言している。ニキビ患者の多くは1-2週で治ることを期待し医療機関を受診していることが明らかになってきた。3カ月程度を要するという医師との考えにはギャップがある。そのような医師と患者の認識のギャップを埋めるためには、尋常性痤瘡ガイドライン2017に則り、急性炎症期には即効性に対するエビデンスがある薬剤を選択することが肝要である。急性炎症期において、目に見える治療効果を患者に体験してもらい治療満足度を向上させることで、維持期への移行率を高め、瘢痕予防に繋げていくことを日常診療において常に意識している。また、演者は維持期における新たな皮疹名称（炎症後丘疹PIP）を提唱しており、攻めの維持期治療についても言及したい。

略歴

1979年	熊本大学医学部卒業、皮膚科入局	1993年	東京女子医科大学皮膚科助教授
1984年	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医取得		米国ハーバード大学医学部留学
1985年	東京大学医学部皮膚科入局	2003年	新宿南口皮膚科院長
1986年	医学博士取得（東京大学）	2008年	東京医科大学皮膚科兼任准教授
1990年	東京女子医科大学皮膚科講師	2010年	東京医科大学皮膚科兼任教授